

## キワニスドールの製作

キワニスドールは、会員、家族、ボランティアの方々がつくっています。男性会員も、覚束ない手つきながら人形を縫っています。そして家族も応援しています。大学、高校のボランティア活動、企業の社会貢献プログラムとタイアップしてキワニスドールをつくる会を行っています。

何と言っても安全が大事なので、製作した人形は一個一個厳重に検査をします。針等が中に残っていないかを検査するために金属探知機による最終検査も行っています。



## キワニスドールの始まり

国際奉仕団体のキワニスクラブの1つである、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年にドールが初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

## キワニスドールの報道とPR活動

日本地区で初めて、東京キワニスクラブでスタートしたキワニスドールは、2003年にNHKラジオで全国放送され、また雑誌では、日本フィランソロピー協会の機関誌や、2004年には診断と治療社の「チャイルドヘルス」12月号、2006年3月に医療関係専門誌「メディカル朝日」2006年3月号にも掲載されました。

2005年3月20日、「キワニスドール」が読売新聞で紹介され、全国の読者から大きな反響がありました。また、2005年8月27日、キワニスドールが1時間の番組として、BS朝日から全国に放映されました。この放映番組を基に20分間にダイジェストしたPR版を制作し、また、2006年から2008年まで日本小児科学会や日本小児保健学会でキワニスドールを紹介し、キワニスドールの普及活動に力を入れています。

2009年から毎年、キワニスドールの利用実例などについての情報の共有をはかり、つくる側と利用する側双方の課題を議論しあう場としてキワニスドール・シンポジウムを開催しています。2013年12月共同通信が取材し、日経新聞をはじめ全国十数紙にキワニスドールの記事が掲載されました。2015年5月、第7回キワニスドール・シンポジウムの記事が東京新聞、読売新聞、電気新聞に掲載されました。また、7月のキワニスドールをつくる会もMXTVのニュースや産経新聞に取り上げられました。2016年7月にキワニスドールフェスティバルが開催されます。キワニスドール(Kiwanis Doll)を2006年7月14日に商標登録し、2016年4月19日に更新しました。キワニスドールの活動は東京キワニスクラブのホームページでも紹介しています。

<http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>

## キワニスクラブ

キワニスクラブは、「世界の子どものために」を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どものための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ先住民の言葉「Num-kee-wan-is」（みんな一緒に集まる）に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の82ヶ国で7,000のクラブ、19万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸・・・と拡大し、現在35のクラブで会員は約2,000名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日一般社団法人に移行いたしました。

### 一般社団法人 東京キワニスクラブ

〒101-0047 千代田区内神田 2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080

e-mail: [tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp](mailto:tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp)

URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>



東京キワニスクラブ  
ドール・パンフレット

病院に無料で差し上げています！



# 「小児病棟で、 子ども達を見守る小さな天使」 ～キワニスドールを知っていますか？～

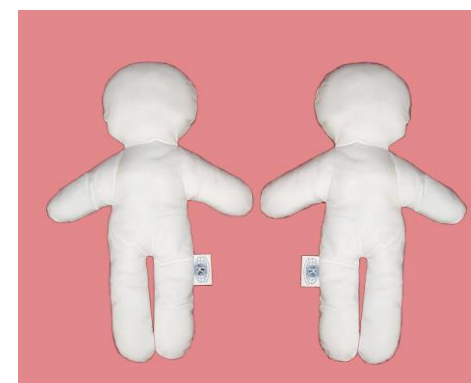
キワニスクラブでは、2001年から会員がキワニスドールをつくり、病院等へ寄贈してまいりました。このキワニスドールは、若い患者さん達を癒し、医療関係者と子どもさんとのコミュニケーションを円滑にしております。効果的な使い方や寄贈先からの声をご紹介します。

## キワニスドールと小児医療

身長約40cmで体重約50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、国際奉仕団体キワニス・マークの小さなラベルだけです。しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、病気の子供達に大きな力を与えています。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。キワニスドールは、病院で若い患者さんに、これからどんな治療をしていくのかを説明するときなどにも使われます。傷口の縫合や、酸素マスクを使用しなければならないような場合、お子さんは驚き、緊張して怯えてしまいますが、キワニスドールを使って説明されると、これから受ける治療の内容がよく判って、怖さや不安が軽減されるそうです。

子ども達はキワニスドールに注射をしたり、時にはお医者さんや看護師さんに教えて貰いながら手術の真似をしたりして、キワニスドール相手の「ごっこ」遊びをしています。人形を身代わりにこれから受ける治療を体験させると、子ども達の恐怖が和らぎ、治療を受け入れやすくなるそうです。



「頭がいたーい」というお子さんに「それでは、僕のこのお人形さんに痛いところをマークしてごらん」自分の痛いところにマークをする状態を見ながら正しい診断の一助にします。

「まず、僕のお人形さんから診察しましょうね、包帯を巻きましょうね・・・」と促すことにより、持っていた病院への恐怖心を取り除きます。

「ママもついてきて・・・」とせがむお子さんに「ママはいけないのよ、でも、ママのお顔を書いたドールをママと思ってしっかり抱いていらっしゃい」と手術室に入るお子さんを安心させます。

## キワニスドールの使い方

キワニスドールが真っ白でノッペラボウなのは、子ども達が好きな色を塗り、顔や洋服を描いて遊ぶことができるように、という工夫をしているからです。大人でも病院は厭な所です。病気の子ども達にとってはなお更です。治療は苦痛を伴いますし、見知らぬ環境におかれて子ども達は怯えています。キワニスドールは、痛くて怖い外来での治療や入院生活を少しでも楽しくできたらという、特別な玩具なのです。

### 先生が診察と治療の説明に

お医者さんが患者の子どもに、病気の症状を説明するのに使います。また、初めに子どもから痛いところなどの不快なところを人形に描かせて、診断の助けにも使われます。さらに、治療が必要な場合、これから行おうとする治療について、人形を使って説明できます。

- ・人形に体や内臓の絵を描いて、治療の説明に使います。
- ・人形に注射をしたり、包帯をしたりと手術や治療の説明に使います。



### 子どもが治療を受ける前に

治療の前に、看護師さんやお母さんが人形に治療するのを子どもに見せると、子どもはまねをして「ごっこ遊び」をするそうです。そうすれば、子どもが治療を受けるときに、恐怖がやわらぎ治療が受けやすくなります。「お人形さんも注射をしたね」とか「お人形さんも手術したよ」とか言うと、子どもも頑張ろうという気になるようです。

- ・人形に診断や治療のまねをさせて、子どものおかれた状態を理解させます。
- ・治療の前に、ママの顔を描いた人形を抱かせることで安心感を与えます。



### 子どもが病室で

子ども達は、大好きな人の顔を描いていつも側に置き、退院のときにも持ち帰ります。特に、2歳児から4歳児の幼児が親しんでいるようです。子ども達は、自分の人形に自由に絵が描けるので、楽しい時間を過ごすことができます。これは入院中の子どもには大きな慰めのひとときになっています。特に、救急入院した子どもの場合、おもちゃを持ってきていないことがあり、キワニスドールが役立っています。

- ・お母さんの顔を描きます。
- ・自分の顔を描きます。
- ・マンガやアニメの主人公を描きます。



### 看護学校や保育士学校で

看護実習生は、子どもと一緒に顔を描いたり遊んだり、お医者さんごっこをしたりします。また、授業のプレパレーションツールの1つにしています。

### その他

養護学校では、子ども達に体の仕組みを説明するのに使われています。

## キワニスドールの寄贈先からの声

聖路加国際病院の小児科の先生から「夜など、お母さんのいない子ども達が抱きしめて寝ているんですよ」とお電話をいただきました。北里大学病院では「この頃のおもちゃは鉄やプラスチックが多く、抱いても癒されません。このお人形は抱くのにとてもいいですね」と、お褒めをいただきました。順天堂大学の先生からは、「人形は真っ白で何もないからとても良い。子ども達がそれぞれ工夫するし、それに個性も出ます」と喜んでいただきました。



### お医者さんのコメント

- ・人形は真っ白でなにもないからとても良い。子ども達はそれぞれ工夫をするし、個性も出る。
- ・重症の幼児には、慰めの用具にもなる。
- ・幼児を安心させて落ち着かせる。ストレスを解消させる。
- ・最近の玩具は鉄やプラスチックが多いが、これは布と綿でやわらかく、抱くと癒される。
- ・キワニスドールは抱くのにとても心持よい。



### 看護師さんのコメント

- ・手術や検査の説明に活用できる。
- ・注射や点滴の説明にはとてもよい。
- ・子どもは人形を使うと、自分の病気の状態をすぐ理解できる。
- ・絵を描いてあげると、子どもの表情が和らぐ。
- ・10年間待っていました（記事でドールのことを知ってから）。

### お子さんたちの反応

- ・自分で目や口を描いて、片時も離さない。
- ・寂しいときにキワニスドールと遊ぶ。大好きな人の絵を描きたがる。
- ・一人でお医者さんごっこをして、自分の入院体験のつらさを話しかけている。
- ・抱いて寝ている。抱き心地が良さそう。

## キワニスドールの寄贈先

東京キワニスクラブでは、これまでに約400の医療機関等に約2.5万個のキワニスドールを寄贈いたしました。何度も再送のご要望がある機関もあります。

- ・主な寄贈先（順不同）

亀田総合病院、がん研有明病院、慶應義塾大学病院、国立がん研究センター中央病院、国立成育医療研究センター、国立特別支援教育総合研究所、自治医科大学附属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、聖隷三方原病院、聖路加国際病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京医科大学病院、東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学病院、東京大学医学部附属病院、難病のこども支援全国ネットワーク、日本赤十字社医療センター、日本大学病院、他多数